

かずさ しちり ぼっけ 上総七里法華(一)

NO. 343
平成25年1月

一 上総七里法華とは

茂原市北部に位置する交差点付近に、「上総七里法華日蓮宗〇〇寺」と、日蓮宗寺院の案内板が建てられているのを目に入ります。昭和四十年代までは、『茂原市史』（昭和四十一年刊）を初めとする多くの市町村史で戦国時代の土気城主酒井清伝（定隆）が長享二年（一四八八）にその領内に出したという改宗令により改宗がなされたとして、「上総七里法華」という言葉が掲載されていました。今でこそ、長享二年の改宗令そのものを根拠としたものは見かけませんが、多くの地域史関係の書物に登場しています。

茂原市近辺から八街市及び千葉市誉田地区付近にかけての約七里四方にまたがる地域には、かつて三〇〇を超える日蓮宗寺院が存在していました。この地域には、現在、日



上総七里法華の範囲

蓮宗から独立してどの宗派にも所属していない単立と呼ばれる二〇余りの寺院を除いて他の宗派がみられません。この状態を指して、「上総七里法華」あるいは、「七里法華」と呼んでいます。

さらにその定義として簡潔にまとめてみますと、「現在の千葉県長生郡・山武郡内を中心とした約七里四方の地域

を、十五世紀半ば過ぎから百年以上の歳月をかけて、土気城主酒井清伝（定隆）及びその末裔等と日蓮宗の僧日泰等が協力しながら、強制的にあるいは布教活動により、真言宗から日蓮宗に改宗し得た宗教革命であり、他宗を許さず固まっている状態である。」ということが出来ます。

二 文献からみた七里法華

七里法華の範囲は、十六世紀後半から現在まで、様々な文献に記載されています。

それは、一般的には前述のように「長生郡、山武郡の約七里四方を中心とした範囲」とされています。しかし、異説としては「笠森の里より東金の裏まで」「西は浜村より東は上総五井村、古所村まで」「房総の西海岸」「土気を中心」に東金に及ぶ七里四方」等の範囲があげられています。

このように、直線的な位置やかけ離れた地域を示した諸説がありますが、今後詳細を明らかにしたいと思います。

茂原市文化財審議会委員

小川 力也

文芸コーナー

竹林

佐藤義江

目の前に 竹林が広がっている
老女が現われて
下草を刈り 枯葉を集めて
焚火をはじめた

麦藁帽子に
赤い柄のエプロン
首に手拭を巻いて

八十歳に届きそうな
老女の仕事着が かわいい

チロチロ燃える炎
ポーン ポーンと音のはじける

煙と音に吸い寄せられるように
皮帽子に ジャンパー姿の男
林間の人影が二人になった

勢いよく立ち昇る炎を囲んで
老いた二人は何を語っているのだろう
ゆったりと時間が流れる

春浅い竹林
竹の子掘りの季節も近い



◎選評 斎藤正敏 春浅い竹林での情景です。まるで竹林に同化したかのようにみえる老いた男女。それを見守る作者の佇まいもみえてきます。風景の中を時間はゆったりと流れてゆきます。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
- 投稿は楷書でお願いします。

※詩の原稿送付先（直接選者）へ〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。